

FF-Data（訪日外国人流動データ）の概要

● 当該データの作成方法

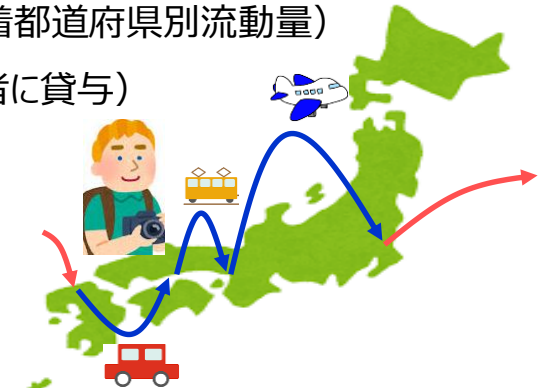
- 国内移動に関して、観光庁「訪日外国人消費動向調査」、航空局「国際航空旅客動態調査」を、国籍別出国者数に関して、法務省「出入国管理統計月報」を組み合わせで作成した。

● 公表物

- 都道府県間流動表（国籍別・交通機関別）
- 公表用データベース（国籍別・交通機関別・目的別・出国空港別・発着都道府県別流動量）
- 貸出用データベース ※周遊ルート、宿泊数等が分析可能（利用希望者に貸与）

● 分析できる内容

- 都道府県間流動量、都道府県別入込客数
- 移動の際の利用交通機関
- 周遊ルート、泊数
- 訪日外国人属性（国籍、目的、来訪回数、旅行手配方法（団体/個人）、出国空港）



● 利用上の注意

- 訪日外国人消費動向調査、国際航空旅客動態調査はいずれも、国内訪問地の情報はアンケート回答者の主観に委ねられているため、特に都市内あるいは都道府県内等の短距離の移動が十分に把握できていない可能性がある点にご注意願います。
- また、例えば1回の旅行で、ある都道府県を2回訪問した場合は、都道府県間流動表ではその都道府県を2回訪問したこととして集計しています。そのため、都道府県別の入込客数を都道府県間流動表から集計する際には、同じ人を複数回カウントしている点にご注意願います。

分析例：日本全国での訪日外国人の移動量の傾向

- 訪日外国人の日本国内での移動量は3年連続増加傾向。※クルーズ船などの特例上陸は含まない
- 移動量を国籍・地域別にみると、中国、台湾、韓国が多く、全体の約6割を占める。

図 国籍・地域別の移動量と出国者数の変化

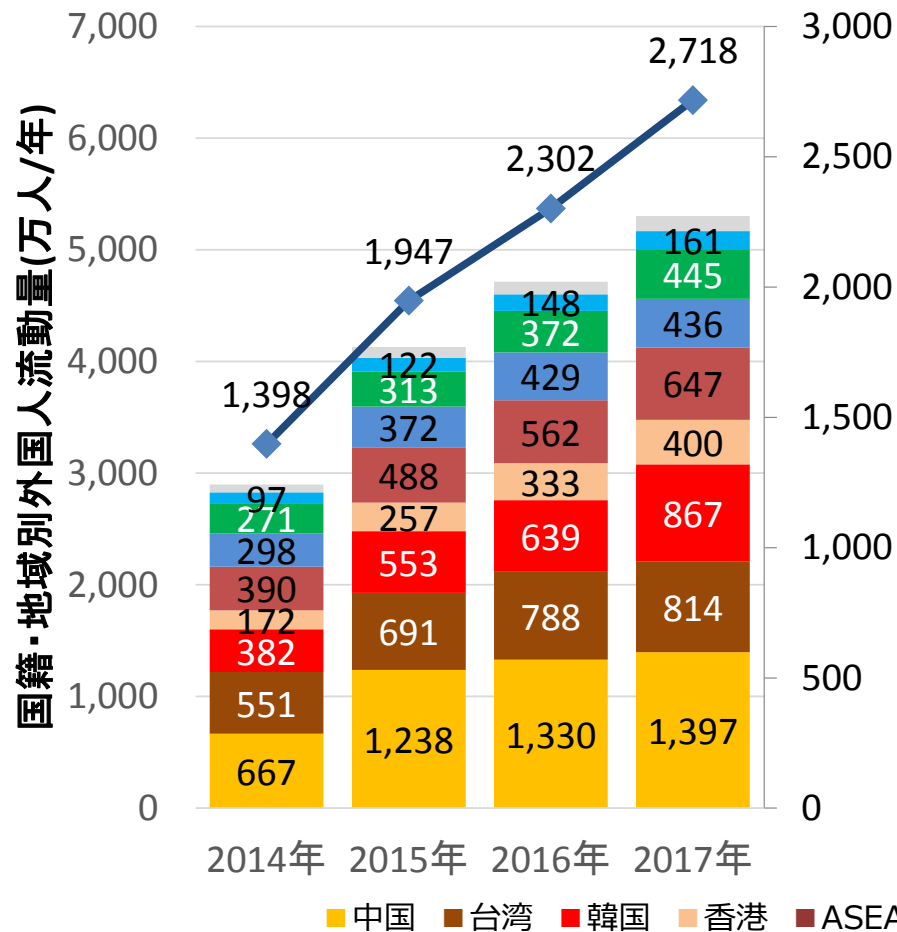
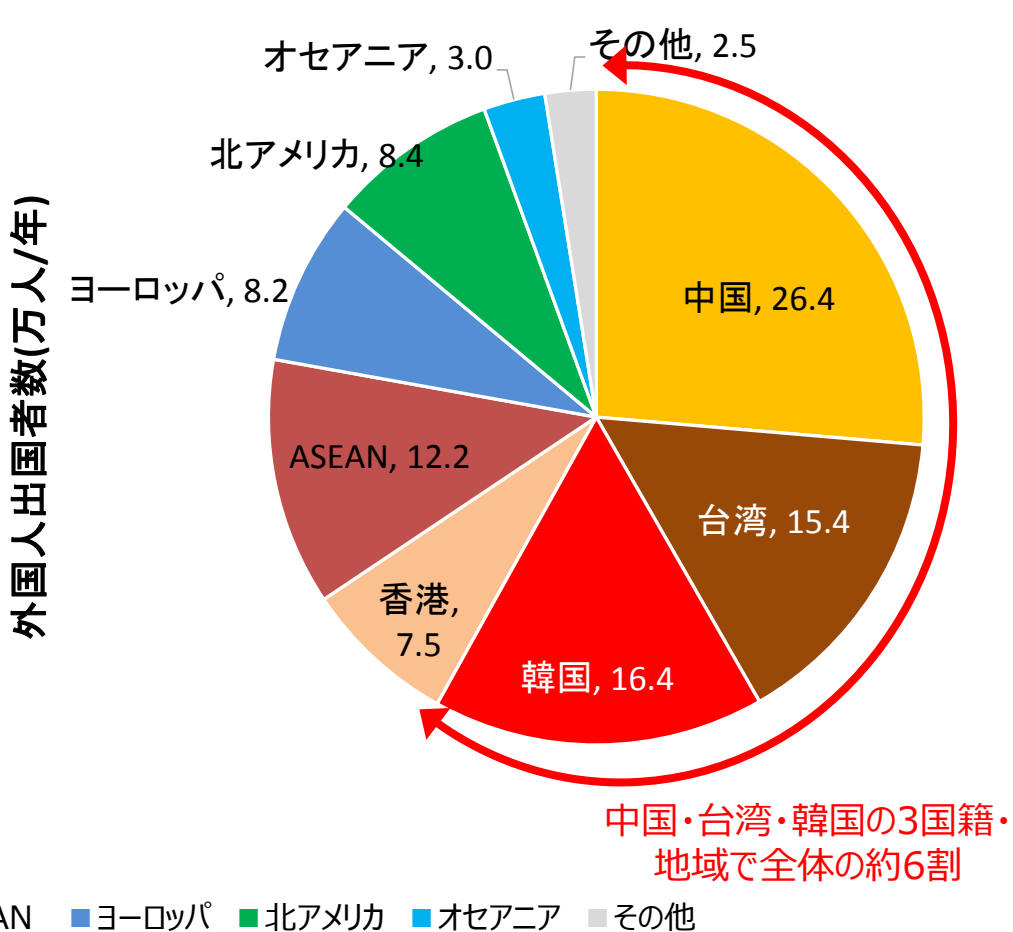


図 移動量の国籍・地域別の内訳 (2017年)



注) 同一県内々の移動及び発着地が不明の県を除く。

出所) 左図：FF-Data、法務省「出入国管理統計」、右図：FF-Data

分析例：訪日外国人の利用交通機関に関する傾向

- 日本全国で見ると、利用交通機関は鉄道が最も多く、次いでバスの移動が多い。
- 関東、近畿ブロックは鉄道での移動が多く、沖縄はレンタカーが多い。

図 利用交通機関の内訳（2017年）

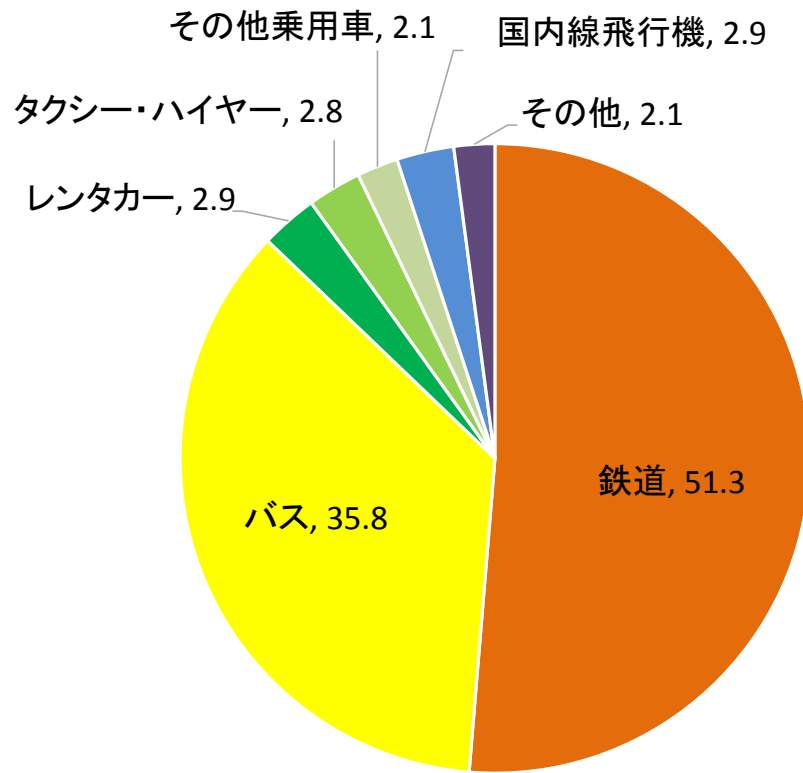
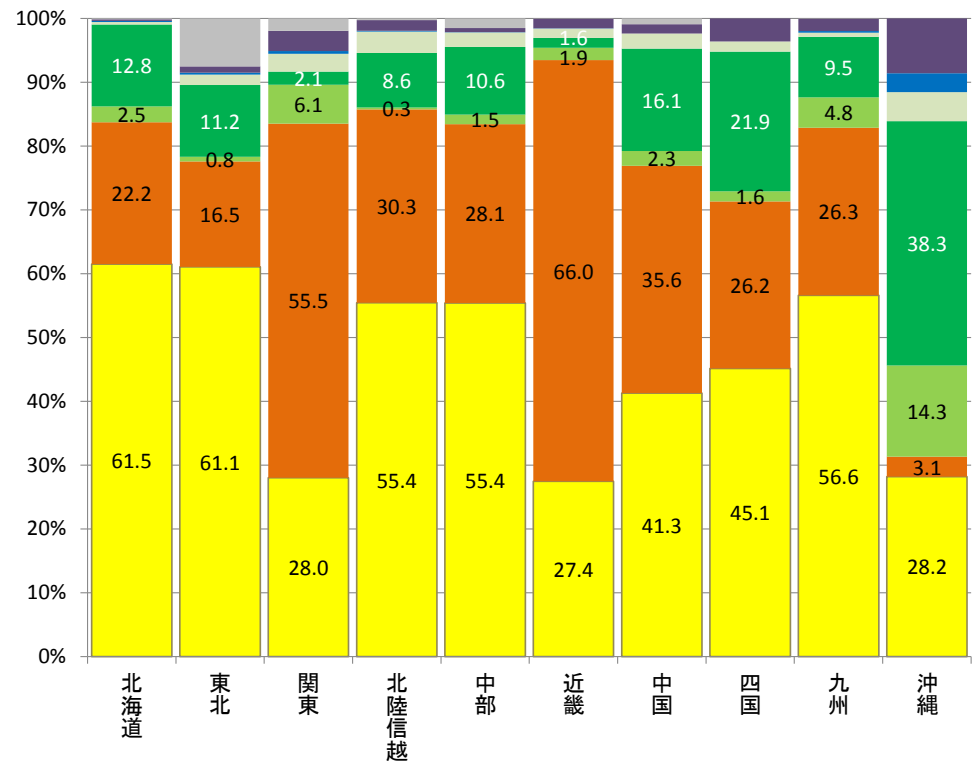


図 地方ブロック内々での利用交通機関の内訳（2017年）



■ 鉄道
 ■ バス
 ■ レンタカー
 ■ タクシー・ハイヤー
 ■ その他の乗用車
 ■ 国内線飛行機
 ■ その他
 ■ 不明

注) 左図：同一県内々の移動及び発着地が不明の県を除く。交通機関不明を除く。

注) 右図：地域ブロックは地方運輸局単位で集計

入国港から最初訪問地までの移動と最終訪問地から出国港までの移動及び発着地不明を除き、国内訪問地間の運輸局内々移動を対象。

分析例：九州地方での訪日外国人の移動傾向

- 九州では福岡県を中心に北部の県間での移動が多いことがわかる。
- 熊本地震の影響を受けて、2015年から2016年にかけて減少した福岡や大分から熊本への外国人の移動が、2016年から2017年にかけて回復傾向にあることが分かる。

図 九州地方の入込客数と県間移動量の上位10移動量（2017年）

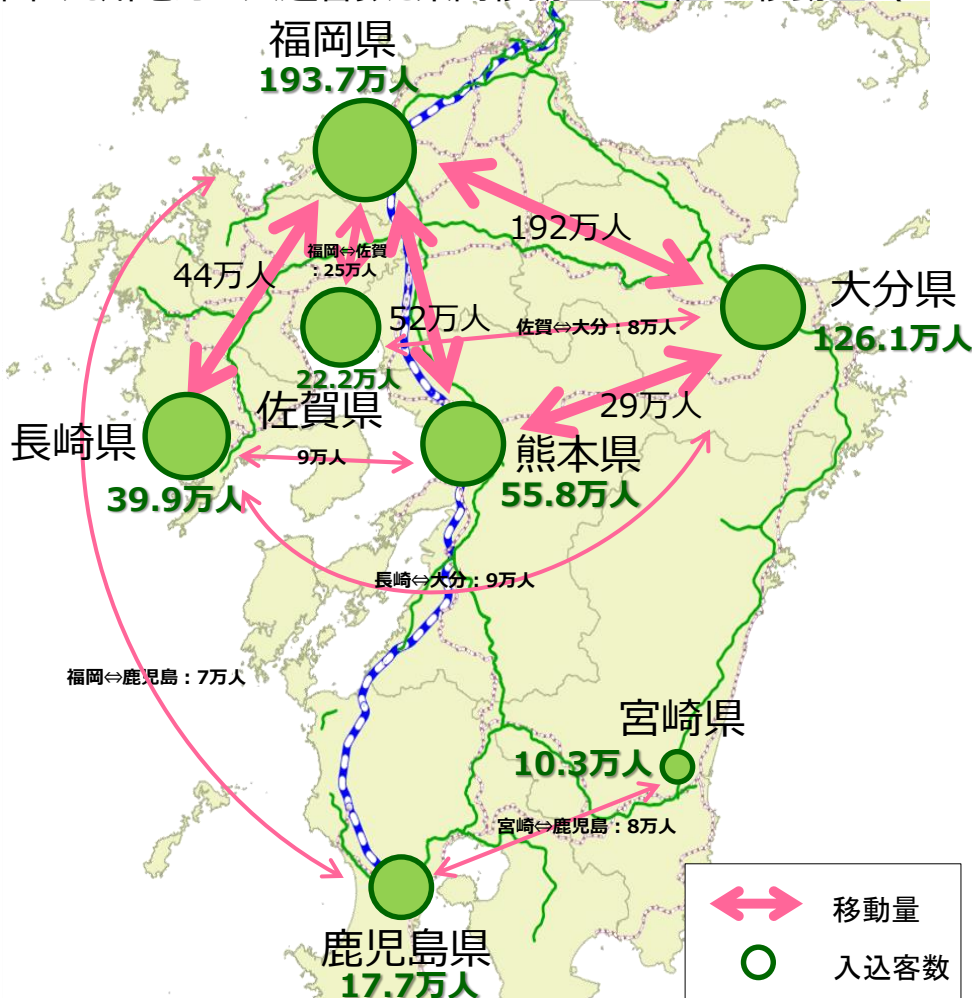
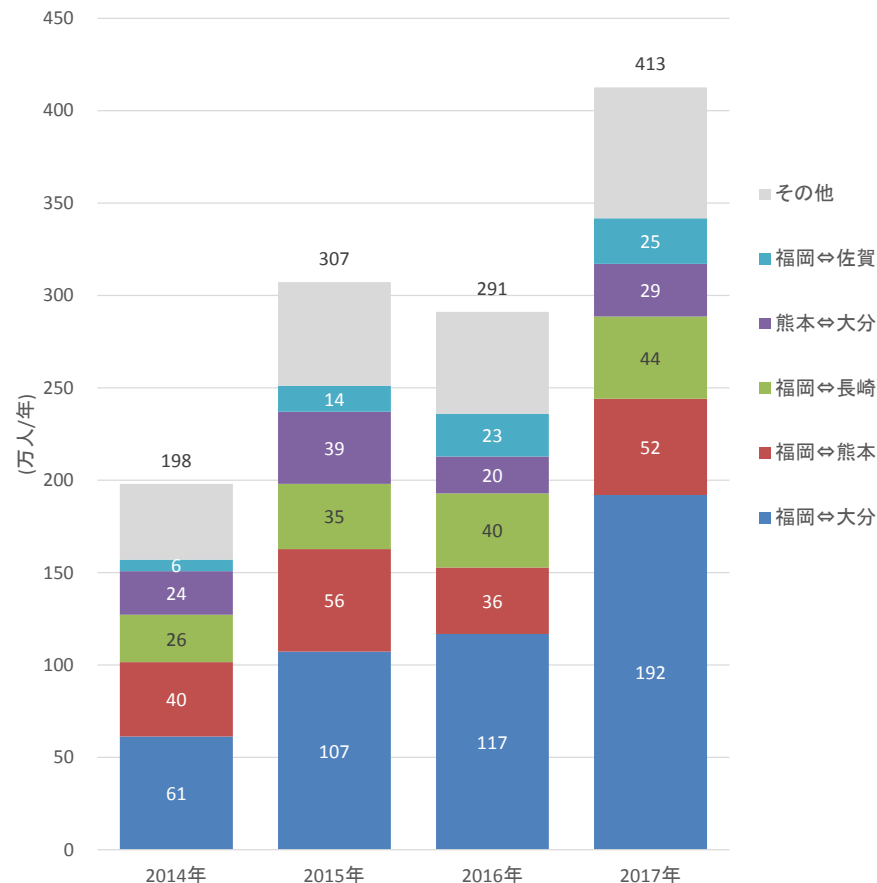


図 九州地方の県間移動量の推移



注) 同一県内々の移動及び発着地が不明の県を除く。
右図のその他は九州地方内々の県間移動量を対象

出所) FF-Data